学校と
家庭と
地域社会の
社会教育情報誌

つなぐ



Ｎｏ．６２
２０２６．１１．２
秋田県教育庁生涯学習課
中央地区担当

中央地区社会教育情報誌「つなぐ」No.62 号をお届けします。

ようやく秋らしい季節を迎えることができました。

本 62 号からは、県教育庁生涯学習課の中央地区における取組と中央地区９市町村の今年度重点事項として取り組んだ事業等について紹介していきます。

今回は、県生涯学習課・にかほ市・男鹿市・由利本荘市の取組を紹介します。

生涯学習課

令和8年度 地域と学校の連携・協働体制充実事業「中央地区地域学校協働活動推進員・地域連携担当教職員等研修会」

８月 21 日、生涯学習センターを会場に中央地区地域学校協働活動推進員・地域連携担当教職員研修会を「地域と学校を『つなぐ』『むすぶ』『一緒に活動する』ための“コツ”」というテーマで開催しました。多くの市町村関係職員、教職員、地域住民、県関係職員の方々が出席しました。

今回は、栃木県立益子芳星高等学校　林　大輔　氏と青森県立森田養護学校　木村小百合氏（ともに地域学校協働か都度推進員）の２名をお招きし、本県の文部科学省総合教育政策局ＣＳマイスターである髙野　睦　氏がファシリテーターとなってトークセッションを行いました。

初めに髙野マイスターが「制度の概要について」「地域学校協働活動推進員等の役割について」を参加者全員で確認した後、以下の４つのトークテーマで、具体的な事例紹介がありました。

①「私の学校や地域の取組紹介」
②「私が普段心がけていること～コーディネートのコツから失敗談まで～」
③「地域と学校の連携・協働がもたらすもの」
④「まとめ・参加者の皆さんへのメッセージ」



トークセッション

そして、次のような意見が聞かれました。

・「具体的な実践の様子を聴くことができ、前向きな気持ちを持つことができました。」
・「失敗談からの成功談は『1 回目への壁』に悩みながら活動している自分にとって励みになりました。」
・「『大きなことを頑張ってやろう』ではなく、参加者とよくコミュニケーションを取って、『できることを楽しんで行う』のが大事だと思いました。」

その後、髙野マイスター、林推進員、木村推進員もグループに入っていただき、ラウンドテーブル形式でグループ協議を行いました。３回テーブルを回りましたが、毎回各グループで活発な情報交換が行われていました。中には、髙野マイスター、林推進員、木村推進員に自校の具体的な悩みを相談する場面も見られました。

グループ協議について

・「ＣＳを導入するための準備で悩んでいたところでしたが、本日の研修では他校の事例等を知ることができ参考になりました。」
・「いろいろな立場の方と協議ができて、新しい視点を得ることができました。もっと地域の方やＰＴＡの方に「甘えて」いいのかと考えております。」
・「現場で動いている教職員や推進員の方々が考える課題感や地域協働への考えを知る貴重な経験になりました。」

という参加者からの記述がありました。



グループ協議

にかほ市

『第 42 回 奥の細道象潟全国俳句大会』

「象潟や雨に西施がねぶの花」「汐越や鶴はぎぬれて海涼し」の２句は、俳人松尾芭蕉が「おくのほそ道」で訪れた最北の地『象潟』で詠んだ句です。旧象潟町が昭和 40 年に観光誘客促進の一翼を担う全県俳句大会からスタートし、第 20 回目から全国大会に改めて、今年で 42 回目を数える伝統ある大会です。今大会の選者、井上康明さん(俳誌「郭公」主宰)による記念講演が行われました。



選者井上康明氏による
一般の部記念講演の様子

「象潟の風光」と題し、多くの歌人が訪れた聖地「象潟」を解説していただきました。

また、18 年ぶりに当市で開催された「奥の細道サミット」と同日同会場で行われ、贅沢な奥の細道イベントの開催となりました。

今年の投句数は、高校生を含む一般の部に 484 句、市内小学５、６年と中学生による子どもの部に 629 句の応募がありました。毎年投句されている方、始めたばかりの方、小中学生と老若男女関係なく「俳句」に親しむ場となっています。

「おくのほそ道」最北の地であり、県内唯一の芭蕉ゆかりの地である象潟。この貴重な歴史的・文化的資源を次代へと継承し、地域の誇りとしてその魅力をさらに高めるとともに、俳句文化の魅力を広く発信する大会として、今後も発展を目指していきます。

男鹿市

多文化共生事業の開催

増加傾向にある外国人住民が、生活・労働・教育分野において不便を感じることなく、生き生きと暮らすことができる機会となるよう、６月と９月に学習交流会を計２回開催しました。

<u>１回目　多文化共生カフェサロン</u>

日本の食文化の１つである白玉をみんなで作りながら、日ごろの悩みや国にいる家族のこと、将来の夢などを語り合いました。

<u>２回目　多文化共生学習交流会</u>

専門の先生から「場面に合った日本のあいさつ」と、市環境安全班の職員から「ごみの分別」について学び、お昼は、地域の方々が作った「冷やしうどん」をいただきました。



初めての白玉づくり



ゴミの分別の実践

由利本荘市

芸術鑑賞教室

９月に、市内の小・中学校を対象に「芸術鑑賞教室」を実施しました。児童生徒の成長段階に合わせて、小学校下学年の部・小学校上学年の部・中学校の部の３つに分けています。

１日・２日の小学校下学年の部では、「パフォーマンス」という初めてのジャンルを鑑賞しました。女性のみで構成されたパフォーマンス集団・G-Rockets☆Gym の迫力あるアクロバットに、児童が驚きの声をあげていました。

15 日の小学校上学年の部では、劇団ポプラ「海底２万マイル」を鑑賞しました。スクリーン映像を活用したミュージカルであり、演出の移り変わりに児童は大変引き込まれていました。

17 日・18 日の中学校の部では、和太鼓グループ彩-sai-による本格的な和楽器演奏が披露されました。公演中に、希望した生徒が舞台に上がって和楽器演奏を体験するコーナーもあり、計 30 名程がレクチャーを受けつつ長胴太鼓・桶胴太鼓を演奏しました。会場内は大いに盛り上がり、生徒たちの音楽に対する興味関心も高まったように感じます。



中学校の部の様子

普段触れることのできない芸術文化を体験することで、児童生徒の芸術を愛する心と豊かな情操が養われるとともに、将来の夢や目標等を考えるきっかけにもなることを期待しています。